

## クリーンセンターごみ処理施設の建て替え（広域化） についての説明会における質疑概要（第5回）

この概要は、平成25年6月30日（日）生活保健センターにて開催した説明会における質疑応答・意見についてまとめたものです。

説明会にご参加できない方にも、説明会当日の質疑等の内容をわかりやすくお知らせするために、重複した質問・意見の省略をしていることをご了解ください。

### 1. 広域化全般について

Q：資料に広域化の効果として、排ガスの高度化処理があるが、単独の場合は高度化処理ができないのか？できるのであれば広域化のメリットではないと考える。

A：単独でも技術的には可能ですが、費用がかなりかかり、（広域化と同程度の高度な処理設備を設けることは）非常に不経済であると考えます。

Q：焼却炉に限らず、発電も小型高性能化が進められているのではないかと？

A：平成9～10年のダイオキシン対策時に、環境省では100トン以下の施設は認めておらず、300トン以上が望ましいということでした。現在は若干変わってきておりますが、一定の規模にした方が発電能力、効率がよくなり、CO<sub>2</sub>の削減にも貢献できると考えています。

Q：日野市ごみ減量推進員等が今日まで協力してきて、ごみは非常に減量している。ゼロにすることは無理だと思うが、拡大生産者責任つまり企業がデポジット制等を行い、責任を持つべきなのではないか。それを推進するように市に頑張ってもらいたい。

A：引き続き可燃ごみ、不燃ごみ等ごみの減量は進めていきます。その結果、焼却処理の効率化のために、集約化して広域化をするということです。

Q：周辺住民の反対にも関わらず馬場前市長が東京都を通して環境省に提出した覚書に、「周辺住民の理解を得てから進めるものとする」とあるが、周辺住民の理解を得ていないのに広報6月15日号で「進めます」と掲載することは地方自治法に違反するのではないかと？

A：市の立場として進めたいと考えていることをお知らせしたものであり、理解を得たという判断ではありません。また、地方自治法違反ではありません。

Q：説明を聞いていると、どこで建設しても問題がないと思う。市役所庁舎は耐震工事が必要と聞いており、市役所と処理場を併せて作れないか。市役所の場所は地盤が良く、水害の心配もない。排熱を利用した暖房も効率よく使えるのではないかと？市役所の場所は選択肢にあったのか？入れなかった理由、排除された理由など説明していただきたい。

A：クリーンセンターの建替えからスタートした話であり、建替えを計画している際に小金井市、国分寺市から共同処理の申し入れがあったことがきっかけであり、市役所近辺に作ることは検討しておりません。

Q：可燃ごみを3市で焼却とあるが、そもそも可燃ごみの定義は何か？

A：台所の厨芥等、緑色の袋に入れてくださいとお願いしているものが、可燃ごみです。プラスチック類の分別は行っていませんが、今後、新施設の稼働までには実施したいと考えています。小金井市、国分寺市はプラスチック類の分別をすでに行っております。

Q：オレンジの袋で集めている不燃ごみは絶対に燃やしていないか？今後も不燃物は燃やさないのか？資源物も絶対に全て回収してリサイクルに回しているのか？

A：収集した不燃ごみ、資源物を選別処理した際に発生する燃える物は焼却しております。

Q：今回のごみ処理施設の更新の件は、市議会を通っているのか？

A：議会では、やるかやらないかという議案の提案方法はありませんので、この計画を進めるために必要な予算なり法的措置があれば、議会にかけて、審議となります。今は、市が内部決定して市民に説明している段階であり、議会にかける段階ではありません。

Q：なぜ日野市は、生ごみの資源化をしている人達を支援し、そのような運動を起こしていかないのか。なぜ燃焼という選択なのか？世界的に見れば極めて稀なことである。なぜ生ごみ堆肥化を進めて、メタン発酵のプラントを建設しないのか？資源循環型社会を目指すのであれば、我々の取るべき道は違うのではないのか？

A：市では生ごみの資源化も含め、さらにごみの減量を進めます。それでも燃やさなければいけないごみが残ってしまうので、それを集約化して一定程度の規模で処理をしていきたいと考えております。

Q：ダイオキシンの主な原因は、食物残渣の中ということか？

A：ダイオキシンは食物からが一番多いと話しましたが、皆さんが食べられている魚、肉、野菜の中にダイオキシンが入っており、それを食べることによる人体への摂取量が一番多いです。大気からの摂取は全摂取量の1%であり、ごく微量です。

Q：プラスチックを燃やさなければ焼却炉の高温が維持できないのではないのか？

A：維持することは出来ます。燃えるごみの量がなくなれば維持はできなくなります。

Q：ごみが無くなったらプラスチックを燃やすという事か？

A：そのようなことは考えていません。焼却炉は2炉あるので、ごみ量が少ないときは、1炉で運転し、適性な焼却温度を確保します。

Q：宮城県に生ごみの素晴らしいプラントがあるが、なぜ研修に行かないのか。メタン発酵のプラントについてもそうである。そのような方向を模索してもらいたい。

A：メタン発酵施設等は以前の建設計画時に検討しましたが、現段階では実績が少なく、技術の信用性が足りないと判断し、最も実績のあるストーカ方式の焼却炉を考えております。

Q：国分寺市にごみ処理場の土地がないというが、国分寺公園はとても広く、ほとんど利用されていないし、その隣にも十分な空き地がある。小金井市にも候補地があるのに、市民が反対して広域に参加しているようだが、なぜ小金井市民の反対の意見は聞いて、日野市は周辺住民が反対しているのに強行しようとしているのか。

A：国分寺市と小金井市は、一緒に二枚橋処理場の跡地を使い建設しようとしていたのですが、他市との関係から難しくなったという状況で、日野市と共同処理を行いたいという申し入れがあったというのがこれまでの経緯です。

Q：市長の考えで取りやめるとしたら、どのような判断の時に取りやめるか？

A：現時点では進めたいという立場で説明会をやっています。皆さんの意見を聞きながら検討中であり、「どうなったら止める、止めない」をこの場で申し上げるのは難しいです。

Q：なぜ小金井市や国分寺市からごみを持ってこなければならぬのか？多摩市などであればまだ話は分かるが、なぜわざわざ北多摩から持ってきて燃やそうとするのか？日野市から誘いをかけたのではないか？

A：広域処理をする理由は、もちろん財政面の問題もありますが、環境面の問題、これからのごみ処理のあり方を考えた上で判断したことです。日野市から誘いをかけたのではなく、日野市単独で建て替えの作業を進めていた中、2市から共同処理の要請があったのが経緯です。

## 2. 費用関係について

Q：単独の建設費は設計値で 82 億円、広域の建設費は落札額で 104 億円では比較がおかしい。説明では当時の概算で出したと言っているが、いつ訂正するつもりなのか？

A：単独の建設費 82 億円は 4 年前にプラントメーカーから見積りを取った上で出した数字であり、一番正確な数字です。比較対象がないと分からないという指摘から、広域については、落札金額から算定いたしました。ステージを同じにして、設計額を基に試算した単独の 82 億円を、広域処理 290 トンに当てはめたのが 123.8 億円という数字です。(パンフレット P 9 参照)

現時点では負担割合等も決まっていない状況であり、あくまでも試算ということになります。今後、基本設計をする中でプラントメーカー等を見積りを取りますが、施設の設備等もまだ決まっていないため、決めた上で改めてきちんと設計額を出していきたいと考えております。

Q：交付金は元来、税金であり、日野市単独であっても、ごみ減量のこれまでの努力を考えれば交付されるべきものである。

A：単独処理でも交付金は出ますが、(一般的な熱回収施設での想定なので) 対象事業費の 1/3 です。現在計画している高効率ごみ発電施設では対象事業費の 1/2 が交付金になります。交付金は税金であるというのはその通りで、単独でも広域でも交付金は出るという事になります。

### 3. 防災関係について

Q：現在の建設場所は、防災面から見ると日野市で一番条件が悪い場所と思われる。立川断層の延長線に位置し、液状化の可能性もある。多摩川、浅川の堤防が決壊した時に、被害が起きやすい場所である。当然、新しい設備はそれらに考慮して設計していると思うが、施設が大きくなり、洪水時に水の出口を塞ぐ形となり、石田地区、万願寺地区の一部が今まで以上に水深が高くなるのではないか。また水溜り減少で水の引きも遅くなる。新施設では被害を少なくするためにどのような対策をしているかを教えて欲しい。

A：施設を設計する際には耐震や洪水対策を検討していきます。基本設計の中で、対策等を検討します。

Q：広域化は経済的なメリットがあると言うが、一方、集約処理は災害があるとダメージが大きくなるのではないか。検討されているデメリットの面を教えて欲しい。

A：多摩地区では相互支援協定というのを結び、何か事が起こればお互いの処理施設で処理をするということになっております。災害に対応するシステムは多摩地区ではできていますので、広域処理にしても心配ありません。

### 4. 環境影響について

Q：周辺の環境の値は、365日24時間計った中での最大値であるか？風上であれば基準値を超えたものを排出しても測定値は低くなる。環境の状況がわかるモニタリングポストを各所に設置し、万が一の故障や事故、災害時等に有害物質が出た時には住民に分かるようなシステムを設けるべきである。

A：1地点ではなく周辺の地点で測定して、四季の各7日間を計測した最大値を載せております。確かに連続で365日計測したわけではありません。環境アセスメントで再度計測して、公開をしていくことを考えております。モニタリングポストについては、周辺環境の全てをモニタリングできるか分かりませんが、対応を検討したいと思います。

Q：排ガスに関して、シミュレーションで語ってよいのか？希望的観測で良いのか？

A：排ガス関連でシミュレーションの話ですが、正式には環境アセスメントを行い、そこで出てきます。現在のデータでいいますと、東京二十三区清掃一部事務組合をネットで検索できるようなのであればご覧いただければと思います。数字については説明したよりもかなり低い数値で推移しており、それがデータとしては信頼できるデータだと考えます。

## 5. 意見

- ・隣接していない日野市に可燃ごみをわざわざ運んでくるのはエネルギーの浪費である。
- ・物理学的には、宇宙に燃えないものはない。可燃、不燃と言っているものは、燃えるごみ、燃やさないごみである。可燃という言葉をごどのような意味で使っているのか。
- ・地元のほとんどの方は不賛成であるにもかかわらず、市は進めることを前提にしているように見えるのが大きな問題である。
- ・今の市長も前市長のいいところだけを引き継いで欲しい。悪いことは改革していかないとどんどん変わってしまう。日野市を良くするためにはもっと活性化しなければいけない。
- ・助成金の問題を言っているが、あなたたちは得をしましたか。質問に答えるだけで、全然身を削っていないのではないか。これなら誰でもできる。